

これからのローカル局に求められる役割と可能性

○鴨居真理子 Mariko Kamoi、 沼田秀穂 Hideho Numata

Keywords : ローカル局 地域活性化 地域課題解決 共有価値の創造 CSV

1 目的

本研究の目的は、ローカル局がこれまで担ってきた普遍的な役割に加えて、これからの時代に新たに求められる役割とローカル局が地域活性化に貢献できる可能性を探ることである。ローカル局が、これまでの経験値だけでは、対応しきれない時代を迎えていることをローカル局員自身が認識し、自らの将来について、様々なステークホルダーにインタビューを行い、生の声を聴くことで、これからのローカル局にどのような役割が求められ、どのような可能性があるのかを探り、自ら変革していく方策を論ずる。ローカル局側からみた研究という点で新しく、本研究の貢献は、これからのローカル局に有用な指針を与える。

2 方法

本研究の調査・分析方法は、ローカル局のステークホルダーにインタビューと文書での質問調査を行い、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ（木下,2003、以下 M-GTA）を用いて定性的方法で分析した。

ローカル局管理職、県出身の県外在住者、県内在住者、NPO 関係者、行政関係者、地元スポンサー企業の 13 名に、これからのローカル局の役割と可能性についてインタビューや文書による質問を実施。得られたデータから概念を抽出し、カテゴリーに分類し、パラダイムモデルを作成。そこからプロセス（結果）を導き出すという手順で調査分析した。文字起こしデータから抽出した 1333 の概念を 18 のカテゴリーに分類し、最終的に 11 の概念にまとめた。

「プラットフォームとしてのローカル局」「コミュニティとローカル局」「創造性を生むコミュニティ」という 3 つの観点に着目して分析をすすめた。

3 結果

調査・分析の結果、絞り込まれた概念は、①進まないネット事業の推進②変化を拒むローカル局の体質改善③ローカル局の強み④情報の流れの戦略的活用⑤放送圏域を越えた情報発信・収集⑥ローカル局と地域双方の人材育成⑦市民との連携・協力⑧親しみの重要性⑨求められることと現状のギャップの解消⑩プラットフォーム機能⑪目指すべき CSV の実践であった。3 つの観点から、それぞれの関連性を見ると、ローカル局にはプラットフォーム機能が求められていることが分かった。ローカル局が様々なステークホルダーとの連携・協力を図ることで、地域活性化に貢献できる可能性が示唆された。さらにローカル局が「親しみ」を醸成することで「選ばれる局」になることが裏付けられた。

4 結論

以上により、これからのローカル局は、本来の役割に加えて、地域のプラットフォームとなり、ステークホルダーとの連携・協力により地域課題の解決をし、新たなビジネスを創出し、地域の活性化を推進する役割が求められている。それは、すなわち、社会価値を創造し、同時に企業価値が想像されるアプローチである「共有価値の創造（CSV）」を実践することであると結論付けた。

【主要参考文献】木下康仁（2003）「グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践—質的研究への誘い」,弘文堂、尹敬勲・野口文（2015）「共有価値の創造（CSV）の概念の形成と課題」